

2020 年 7 月 27 日

復興ありがとうホストタウン連絡協議会 情報発信に関するアンケート 結果概要

復興ありがとうホストタウン 23 団体の回答結果は以下のとおり。

1 現在の活用ツール

- ・ホームページを通じた発信(18)(写真等を多く掲載し、ホストタウンへの市民の理解を深め、より多くの参加を促している等)
- ・広報誌を通じた発信(9)(毎月でホストタウン情報を発信等)
- ・FB(5)を通じた発信(多言語で発信、独自のハッシュタグを付けている等)
- ・Twitter を通じた発信(2)
- ・ラジオを通じた発信(2)(市政情報番組内で 2 か月に 1 回程度発信等)

2 具体的な発信事例

- ・選手団や政府関係者等の来訪時に震災遺構見学のメニューを盛り込むようにし、併せて英語表記のパンフレットを作成し、市民に配布。
- ・他部署(図書館等)との共催による PR イベントの実施。
- ・月 1 回程度オリパラ通信を発行。見やすさやデザインなど、なるべくインパクトがあるように作成している。
- ・相手国との国際交流事業(アンバサダー招致、相手国訪問等)と絡めて機会のあるごとに記事を投稿している。

3 海外への発信事例

- ・相手国の現地日系人向け新聞にホストタウン活動が取り上げられた。
- ・相手国の競技団体の SNS で発信してもらった。
- ・世界で放映されている日本のテレビ番組で取り上げられた。

4 今後の課題・方向

- ・相手国の言語での発信が課題。
- ・自治体が保有するアカウントの知名度が低く情報発信力を高めるのが課題。
- ・SNS での効果的な情報発信の方法を探っていきたい。
- ・復興ありがとうホストタウン自治体が共通して発信できるツールがほしい。
- ・協議会メンバーで連携した発信を行いたい。
- ・被災地に来日した選手等が訪問してくれるよう工夫が必要。